

760. THURET, G. (1875): *Ann. Sci. Nat. VI. Bot.*, **1**, 372-382. TIFFANY, L. H. & M. H. BRITTON. (1952): *The Algae of Illinois*. ix+407 pp. Chicago. UMEZAKI, I. (1958): *Mem. Coll. Agr., Kyoto Univ., Fish. Ser., Special Number*, 55-67. UMEZAKI, I. (1961): *Mem. Coll. Agr., Kyoto Univ.*, **83**, 1-149. VELASQUEZ, G. T. (1962): *Philippine Jour. Sci.*, **91** (3), 267-380, pls. 1-13. WETTSTEIN, R. R. (1924): *Handbuch der systematischen Botanik*. 3rd ed. vii+1017 pp. Leipzig, Vienna.

新 著 紹 介

故 クック博士の遺稿「シオミドロ科植物の研究」の出版

ドイツのヘルゴランド臨海研究所の P. KORNMANN 博士は、急逝により未発表のままとなっていた 故 PAUL KUCKUCK 博士の褐藻シオミドロの科の研究資料の纏めと整理に努力され、1953年から1963年にかけて、*Helgoländer wissenschaftliche Meeresuntersuchungen* 誌上に、8回に亘って、その成果を公けにしてきた。1964年、この8部からなる研究論文が一巻に纏められて出版されるに至った。

題 名: *Ectocarpaceen-Studien*. 239 pp., 95 figs.

発行所: Bibliothek, Biologische Anstalt Helgoland, 2 Humburg 50, Palmaille 9, Deutschland.

価 格: 18.70 ドイツマルク (送料共)。邦貨に換算して約1,683円。

この本は一般の本屋で扱っていないため、藻類等者の間でも余り知られていないようである。よって、日本の藻類学会の機関誌にこの本の紹介をしてほしいと KORNMANN 博士から手紙で依頼があった。 (千原光雄・国立科学博物館植物第二研究室)

学 会 録 事

日 本 藻 類 学 会 懇 親 会

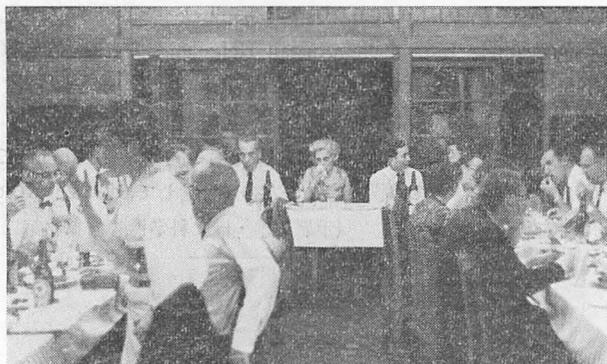
「太平洋の藻類、その生物学と養殖の問題」と題されたシンポジウムが第11回太平洋学術会議の冒頭から2日間、続いて2日おいて1日、計3日間にわたって行なわれた。この会議に参加する海外からの藻類学者達と懇談する機会をもつため、日本藻類学会は、8月24日夕、東京後楽園涵徳亭において、懇親会を開催した。三々五々集まった内外海藻学者たちは、夕やみせまる庭園を散策し、歓談をかわしてのち会に移った。

一句ごとに爆笑の渦を起させる軽妙洒脱な広瀬弘幸教授の司会で始まり、まず“Kanpai” “Cheer”等の声の乱れとぶ中で乾杯。続いてカリフォルニア大学 PAPENFUSS 教授、本会会員藤原輝子博士、この日目出度く誕生日を迎えたインディアナ大学 STARR

教授などのデールスピーチがあり、会はまさにクライマックスに達した。論文で、あるいは手紙の上でのみ名を知り合っていた志を同じくする者達が、互を目の前にして歓談は過ぎゆく夏の夜の一刻を短く感じさせた。



於 後 楽 園



於 後楽園涵徳亭

終りに近く、時田昭会長の妙味溢れる挨拶があり、ここでまた爆笑が渦巻いた。午後8時、螢の光の歌声とともに懇親会は有意義に幕を閉じた。内外の第一線に活躍する藻類学者がこのように多く一堂に会したことは、日本藻類学会始まって以来の画期的な出来事であり、8月24日は日本藻類学会にとって永く記念すべき日となった。

この会を開くに当って、東京大学新崎盛敏教授、徳田広氏、及び新崎研究室の室員諸氏に多大の尽力をいただいた。感謝申し上げる。尚、当夜数々の海藻食品及び灰皿の寄贈をいただいた松坂屋百貨店及び同店の斎藤氏にお礼申し上げる。 (千原光雄)

出席者は次の通り(ABC順)

外国人出席者

ABBOTT, ISABELLA (アメリカ)	ALLEN, MARY B. (アメリカ)
CHAPMAN, V. J. (ニュージーランド)	DAHL, ARTHUR L. (アメリカ)
DOTY, MAXWELL S. (アメリカ)	Dr. & Mrs. FELDMANN, J. (フランス)
FURIX, A. E. (アメリカ)	Dr. & Mrs. HALSTEAD, B. (アメリカ)
Dr. & Mrs. HOLLENBERG, G. J. (アメリカ)	
HONG, K. C. (韓国)	KROHIN, E. (ソヴェト)
LEE K. Y. (香港)	MOKYEVSKY, OLEG B. (ソヴェト)
NELSON, RICHARD (アメリカ)	OBERLANDER, GEO (アメリカ)
PAPENFUSS, GEORGE F. (アメリカ)	PHAM-HOANG, HO (ヴェトナム)
PRAUSE (シンガポール)	Dr. & Mrs. PLOVASOLI, L. (アメリカ)
RAO, P. S. (インド)	SCAGEL, ROBERT F. (カナダ)
STARR, RICHARD C. (アメリカ)	WOLLASTON, ELISE (オーストラリア)

日本人出席者

秋山 優	新崎 盛敏	新崎 やす子	千原 光雄	榎本 幸人
藤原 輝子	藤山 虎也	福島 博	長谷川 由雄	林田 文郎
広瀬 弘幸	猪野 俊平	石川 依久子	岩崎 英雄	梶村 光男
神山 郁子	神山 美佐子	香村 真徳	北原 祥子	古城 房子
草野 干夫	桑原 連	正置 富太郎	三谷 裕子	三輪 知雄
中村 義輝	中村 道子 (中村義輝氏夫人)		大房 剛	大森 長朗
大野 正夫	斎藤 譲	里見 雅子	瀬木 紀男	高田 純直
田中 剛	舘脇 正和	時田 鄂	徳田 広	戸沢 知子
梅崎 勇	山田 幸男	吉田 忠生	吉崎 誠	

日本藻類学会主催江ノ島海藻採集会

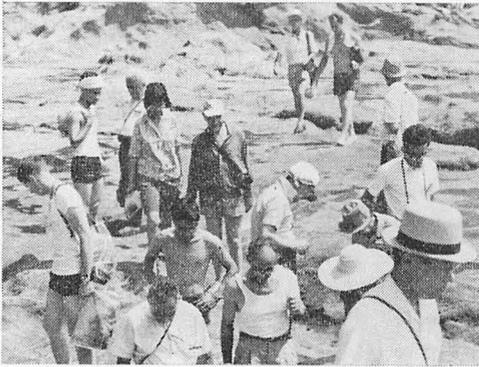
日本藻類学会は第11回太平洋学術会議東京開催を機に、海藻採集会を8月30日神奈川県江ノ島海岸で主催した。採集会は極めて盛会で、内外の藻類学者40名近くがこれに参加した。

本州東方海上に停滞を続ける台風16号の動きが実に気にかかるこの数日であったが、8月30日は天気良く、海も穏やかで、8月末の海藻採集会としてはこれ以上の好条件を望み得べくもない絶好の採集日和となった。

午前8時新宿駅小田急線入口に集合。これを追いかける報道関係者も交えて、一行を乗せた電車は一路片瀬江ノ島駅へ。駅前でのわれもわれもの記念撮影とゾウリ買いと麦藁帽購入がすんで、脱衣場にきめられた江ノ島ヨットハウスについての10時少し前であ

った。直ちに東南から西南にかけての島の海岸で海藻を採集する。早速水着姿で勇敢に海中にたび込む婦人藻類学者、カメラを構えて生態写真撮影に熱中する者、海藻を片手に、しばし立止って大声で議論を展開する日本人学者と外国人藻類学者、文献でお目にかかっただけの「ヒジキ (*Hizikia*) とイシゲ (*Ishige*)」を目の当りに見て、これでもう充分満足したと繰り返すアメリカ藻類学者……。潮の満ち始める頃、潜水の名手達が次々と低潮線下の海藻を採集してきて、またひとしきり話がはずむ。

12時半をやや回って、江ノ島ヨットハウスで昼食。三浦昭雄氏寄贈のペンテンモの腊葉標本が会長の手で外人学者にくばられる。午後は、3時17分の片瀬江ノ島駅発の電車に



於 江 の 島

乗車するまで、採集物を整理するもの、海藻を話題に引続いて議論を展開するもの、寸暇を惜しんで異国の風物の見物に精出すものなど、各人思い思いの時を過ごして午後4時25分一同無事新宿駅に到着した。

その後、採集物整理のため用意された上智大学生物実験室で、腊葉標本を作るもの、本国へ送るべく液漬標本を作るもの、あるいは採集物を検鏡するものなどあって、結局最後の解散は午後7時で

あった。前週の東京大学における藻類シンポジウムの緊迫した3日間とは雰囲気異にして、夏の太陽の照りつける日本の自然の中で、リラックスした気分で過ごしたこの海藻採集会の一日は、内外の藻類学者にとって極めて有意義であったと同時にまた楽しい思い出の多い日でもあったと思う。

尚、東京水産大学三浦昭雄氏、三信化工株式会社松井、片柳、粕谷の諸氏、江ノ島マリンランド中島将行氏、小田哲之亮氏等に潜水により低潮線下の海藻採集に協力下さった。また、上智大学水野復一郎教授、堀内四郎助教授には生物実験室使用について多大の配慮をいただいた。また、Hopkins 臨海実験所の Isabella A. ABBOTT 博士は進んで Co-Leader の役を果たして下さった。上記の方達にお礼申し上げる。(千原光雄)

参加者は次の通りである (ABC 順)

外国人参加者

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| ABBOTT, ISABELLA (アメリカ) | CHANG, KIAW LAN (シンガポール) |
| CHAPMAN, V. J. (ニュージーランド) | CORNER, E. J. H. (イギリス) |
| DAHL, ARTHUR (アメリカ) | FELDMANN, JEAN (フランス) |

HOLLENBERG, GEORGE J. (アメリカ)	HUTCHINGS, L. M. (アメリカ)
KWAN, S. H. (韓国)	MAHN, B. (タイ)
MOKYEVSKY, OLEG B. (ソヴェト)	NELSON, RICHARD (アメリカ)
OBERLANDER, GEO (アメリカ)	PAPENFUSS, GEORGE F. (アメリカ)
RAO, P. S. (インド)	STARR, RICHARD C. (アメリカ)
SIEBUTH, JOHN McN. (ノルウェー)	THORNTON, I. W. B. (イギリス)
VELASQUEZ, GREGORIA (フィリピン)	WENDT, DOROTHY M. (アメリカ)
WOLLASTON, ELISE (オーストラリア)	

日本人参加者

新崎 盛敏	荒木 繁	千原 光雄	梶村 光男	香村 真徳
小林 義雄	草野 干夫	三浦 昭雄	中村 義輝	大野 正夫
斎藤 讓	多湖 寅輝	館脇 正和	時田 鄂	徳田 広
月館 潤一	山田 幸男	山岸 高旺	吉崎 誠	

本 学 会 懇 談 会

昭和41年度日本水産学会秋季大会が広島県福山市で開催されたのを機に、本学会懇親会が10月8日午後6時より瀬戸内海ヘルスセンター内の一室に於いて催された。出席者は23名。岩崎英雄氏の司会により始まり、猪野俊平氏による歓迎の辞、時田会長の挨拶の後、広島の銘酒をくみ交し乍ら談笑し10時に散会した。

当日の出席者は次の通り(敬称略)

新崎 盛敏	藤原 輝子	藤山 虎也	藤山 和恵
広瀬 弘幸	今井 丈夫	猪野 俊平	岩崎 英雄
喜田 和四郎	日下部台次郎	野上 和彦	野沢 洽治
尾形 英二	大房 剛	大寿 長朗	小野 知足
斎藤 雄之助	佐藤 政郎	沢田 武男	須藤 俊造
田中 剛	時田 鄂	篠 薫	

尚、この懇談会の準備には藤山教授御夫妻の多大のお骨折をいただき、且つその御配慮によって、日東漁網株式会社から多大の御寄付をいただきました。ここに本会として厚く感謝の意を表します。

評 議 員 会 記 事

昭和41年8月15日正午より午後1時まで、北海道大学教養部N154室で評議員会がひらかれた。

出席者 評議員：福島 博 広瀬弘幸 今堀宏三 中村義輝
中沢信午 野田光蔵

会長：時田 鄂

幹事：正置富太郎 篠 熙 斎藤 譲

前幹事：舟橋説往

欠席評議員4氏のうち瀬木紀男、須藤俊造両氏は会長に委任し、次の事項について協議承認された。

1. 昭和40年度庶務・会計報告
2. 昭和41年度予算案
3. 昭和41年度庶務・会計中間報告
4. 会則の一部改正について

第41回 総 会 記 事

本会第14回総会は昭和41年8月15日午後5時半より6時まで北海道大学理学部会議室に於て開催された。出席者55名。

総会は次の順序で行なわれた。

- I. 開会の辞：斎藤幹事
- II. 議長選出：慣例により地元会員の川端清策氏が選出された。
- III. 報告事項：
 1. 庶務報告：昭和40年度庶務報告及び、同41年度中間報告が斎藤幹事よりなされ、承認された。
 2. 会計報告：昭和40年度決算報告が正置幹事よりなされて承認を得てのち、昭和41年度予算案が同年度中間報告と共に同幹事より提示説明があり承認された。
- IV. 協議決定事項
 - (1) 会則の一部改正について：

現行第8条を次の通り改正することに決定（下線の部分を附加する）

第8条 会員は毎年会費500円を前納するものとする。但し、名誉会員（次条に定めめる名誉会長を含む）及び特別会員は会費を要しない。
- V. 出席者（55名 敬称略ABC順）

秋山 優 榎本幸人 福原英司 福島 博 舟橋説往 芳賀 卓 広瀬弘幸
堀 輝三 市村輝宣 今田 克 今堀宏三 岩崎尚彦 岩城往江 香村真徳
姜 悌 源 川端清策 川嶋昭二 加崎英男 北見秀夫 北見健彦 小林艶子
熊野茂 黒木宗尚 李仁圭 正置富太郎 松永圭朔 御船政明 三上日出夫

三輪知雄 中村義輝 中沢信午 野田光蔵 大房 剛 大西一博 斎藤 譲
 阪井与志雄 佐々木正人 瀬戸良三 申 正九 鈴木邦子 多湖実輝 館脇正和
 田沢伸雄 坪 由宏 辻 寧昭 時田 郇 梅崎 勇 籾 潔 山田家正
 山田幸男 山岸高旺 吉田啓正 以下非会員 NELSON, R. W. 西浜雄三
 STARR, R. C.

総会終了後6時から籾幹事の司会により懇親会に移った。

懇 親 会

会長及び名誉会長の挨拶の後、折から来日中のインディアナ大学 STARR 教授と釜山水産大学姜教授の興味深い講演に始まり、終って三輪知雄氏の音頭でビールの乾杯、続いて会食に移った。会食中、日本の北端より阪井与志雄氏、南端より香林真徳氏がそれぞれお国自慢をまじえたスピーチ。続いて有志がそれぞれのお国を語り、なごやかなヤジなども続出して長い札幌のたそがれをたのしんだ。終りに広瀬弘幸氏より来年神戸で用かれる総会の宣伝をかねて最大のお国じまんがあり、一同爆笑の連続で会をとじた。

以上会の報告を終わるに当り、本会開催のため多大の御尽力を賜った北大理学部中村、黒木両教授をはじめ植物分類学教室の方々に、又多額の寄附を賜った北海道浅海増殖研究会、北海道漁業協同組合連合会および関係諸団体に厚く御礼を申し上げる。

会 員 移 動

(昭和41年4月16日から10月20日まで)

新 入 会 (19名)

住所変更 (8名)

退 会 (1名)

細谷 幸一

役員移動

このたび本会幹事金子孝氏は移動のため任を解かれた(9月30日付)。